

【暗証聖句】「なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たちを永遠に完全な者となさったからです。」ヘブライ人への手紙 10：4

【今週のポイント】

【日・なぜ犠牲が必要だったのか】

ヘブライ人への手紙 9 章 15 節「こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません」

イエス様は私たちに永遠の命をくださることを、契約という形で約束してくださいました。そのために、イエス様はご自分の命を犠牲にして、私たちの罪を贖ってくださいました。この契約を神様自ら破ることはありません。そのことを切り裂いた動物の間を通られるという、日本の指切りのように、約束を破ったら切り裂かれても良いということを表す当時行われていた儀式を自らが行うことで表してくださいました。

創世記 15 章 17 節「日が沈み、暗闇に覆われたころ、突然、煙を吐く炉と燃える松明が二つに裂かれた動物の間を通り過ぎた。その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。エジプトの川から大河ユーフラテスに至るまで」

神様は約束を守られます。もし破ることがあるとすれば、それは私たちのほうです。その結果、どうなると主は言われているでしょうか。

エレミヤ書 34 章 18 節「わたしの契約を破り、わたしの前で自ら結んだ契約の言葉を履行しない者を、彼らが契約に際して真っ二つに切り裂き、その間を通ったあの子牛のようにする。」

このようにとても恐ろしいことを言われています。しかし、実際には神様は私たちが切り裂くようなことはなさいません。切り裂いたのは自分自身でした。ヘブライ人への手紙 9 章 22 節で、「血を流すことなしには赦しはありえないのです」とありますが、本来は契約を破った私たちが血を流さなければならないのに、血を流してくださったのは、イエス様だったのです。これにより新しい契約が完結するのです。

【月・犠牲のさまざま形】

イスラエルの犠牲制度には 5 つの異なる種類があります。

燔祭（焼き尽くす献げもの）…動物を祭壇の上で焼き尽くす。私たちのためにその命を捧げつくされたイエス様を象徴しています。

素祭（穀物の献げもの）…食物を与えてくださることへの感謝を神様に表す。それは命のパンであるイエス様をも表し、その命をいただくことを意味していました。

酬恩祭（和解の献げもの）…健康と幸福を祝うもの。平和を与えてくださるイエス様を表しています。

罪祭（贖罪の献げもの）…罪の贖罪を与えるもの。動物の流す血が強調され、その血は罪を赦すために流されるイエス様の血を象徴しています。

けん祭（賠償の献げもの）…償いや弁償が可能な場合に赦しを与えるもの。私たちが過ちを犯した場合に、相手に対して償う義務から解放されているわけではないことを表しています。

聖所のこれらの犠牲制度は、イエス様が単に私たちの罪の身代わりとしてだけあるわけではなく、イエス様を食べ、恵みを分かち合い、過ちを犯した人々に償うことをも意味していることがわかります。

【火・イエスの完全な犠牲】

ヘブライ人への手紙 10 章 10 節に、「この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、私たちは聖なる者とされたのです」とあります。「ただ一度」と言われているのは、イエス様の犠牲は完全であったということを意味しています。そして、イエス様の贖いを象徴していた旧約時代のすべの犠牲は、十字架において完結されたことを意味しています。このことは逆にレビ人の祭司たちの不完全さをも表しています。そのことに関して、ヘブライ人への手紙 7 章 23 節において、「レビの系統の祭司たちの場合、死というものがあるので、いつまでも務めを続けることができず、大勢の人が祭司となりました」とあったり、ヘブライ人への手紙 9 章 9 節で、「この幕屋とは、今という時代の比喩です。ここでは、供え物やいけにえが献げられますが、礼拝する者の良心を完全にすることはできません」と書かれてあります。祭司では不完全だったものを、イエス様が完全にくださったわけです。そして、そのために支払われた代価は、イエス様の命でした。命はただ一つです。これ以上の代価はありません。だから、ただ一度で完全となるのです。

【水・十字架と赦しの対価】

ヘブライ人への手紙 9 章 23 節に、「天にあるものの雛型（地上の幕屋・聖所）は、これらのもの（動物の血）によって清められねばなりません。天にあるもの（天の聖所）自体は、これらより優れたいけにえによって清められねばなりません」とあります。地上の聖所では、人々の罪の赦しのために身代わりとして動物がささげられました。そして、その動物の血を、至聖所である臨在の幕屋の聖なる垂れ幕にふりかけられ、また香をたく祭壇の四隅の角に塗られました。これにより罪が聖所に移されました。これは神様がその罪を負うことを意味していましたが、聖所に罪が移されることによって聖所は汚れました。そこで、一年に一度、人々の罪をアザゼルと呼ばれるサタンを象徴する雄山羊の上に移し、荒野に放ちました。これにより、象徴的に聖所が清められるのでした。地上の聖所は天にある聖所のひな型なので、これらの地上の聖所で行われたことは、天の聖所でも行われることとなります。

しかし、なぜ天の聖所は清めを必要としたのでしょうか。私たちは類推によって、悔い改めたイスラエル人の罪が地上の聖所に移されたのと同じように、イエス様を受け入れた者たちの告白した罪が天の聖所に「移された」のだ、とすることができます。地上での贖罪日には、多くの動物が殺されました。それは将来におけるイエス様の死を象徴しており、イエス様は自らの命という対価により私たちの罪を負ってくださるとともに、完全な形で天の聖所を清めるのです。

【木・裁きと神のご品性】

イエス様の天の聖所における働きは、私たちの罪を赦し、清め、永遠の命を与えてくださる働きと同時に、裁きの働きも行います。再臨前審判です。しかし恐れる必要はありません。

「私たちは、罪に汚れた衣のまま神の前に立つしかありません。しかし、私たちの擁護者なるイエスは、悔い改めと信仰によって魂をイエスにささげたすべての人を力強く擁護してくださいます。」教会への証

再臨前審判とは、私たちの救いを確定させるためのものなのです。再臨前審判は、死者のうち誰がキリストにあって眠っているのか、すなわち誰がキリストにあって最初の復活にあずかるにふさわしいかを天の住民に明らかにします。それはまた、生きている者のうち誰がキリストにあって神の戒めを守り、イエスの信仰を続けているか、すなわち誰がキリストにあって永遠のみ国へたずさえ入れられる用意ができていられるかをも明らかにします。そして、この裁きはイエス様を信じる者を救うことで神様の義を擁護します。それは、神様に忠実であり続けた者がみ国を受けることを宣言します。イエス様のこの働きが終わるとき、人間に与えられている再臨前の恩恵期間も終了します。